

高校生へ interview



社会に役立つことをここで学びました

ヴォーリス学園
インターアクトクラブ
前部長 神田 純那さん
(高校3年生)

中3のときにイルミネーションの点灯式を見て、「こんなに面白い部活があるのか」と、IACに入るためにヴォーリス学園への進学を決めました。コロナ禍でいろいろな活動が制限され、人とあまり出会えなかったことが心残りですが、IACでは名刺交換やあいさつ、言葉づかいなども含めて、社会に出て役立つことをたくさん学びました。特に、前に出て話す機会が多かったので、「話す力」が身に付いたと思います。後輩たちは団結力が高く仲が良いので、これからも楽しく活動を続けてほしいです。



4

IACの活動♪

- 1 「八幡堀を守る会」の清掃活動のお手伝い。地元の人や観光客が気持ちよく過ごせるように、生い茂る草を刈り取ります。
- 2 ロータークラブの皆さんを交えて定例会。大人の意見も参考にしつつ、自分たちの意見をまとめます。
- 3 クリスマスを控え、ロータリークラブと協力しながら、駅前のイルミネーションのデザインから設置までを行いました。
- 4 「はちの子」でボランティア。障がいがある子どもたちも、お兄さんお姉さんとの交流を楽しみにしています。



2



3



1



実現力

高校生

ヴォーリス学園インターアクトクラブ

「やりたい」気持ちを行動に移す力。それは人との出会い、実際の経験で生まれてくるもの。「育む地域」と「支える環境」が、高校生の成長につながっています。

地域の人へ interview

高校生たちと Win-Win の関係を

近江八幡市余暇支援クラブ「はちの子」
事務局長 寺井 尚子さん

高校生たちの「障がいがある子どもたちと触れ合い、障がいやその周りの環境を身近に感じる」という経験が大事だと思っています。はちの子のボランティアに来て、福祉系や教育系に進路を決める子どもも多く、そういったきっかけづくりの場として、ボランティアに参加してもらえればうれしいですね。

高校生たちの「やりたい」ことを実現できる地域や環境であり続けることが、本市に活力を与え、より良い未来につながっていくのかもしれないね。

◆これからの活動

コロナ禍もひと段落して、活発な行動が可能になった今日この頃。夏から新体制で始まったIACでは、「また関わりたいとお互い思えるような、人とのつながりを大事にする活動をしていきたい」と意気込んでいます。

まだまだあるよ♪ IACの活動や体験



ヒツジの毛刈り



鮎ずしづくり



ヨシ刈り



映画上映会



松明づくり



棚田ワークショップ

先生へ interview

最初に答えを
言わないことが大切

ヴォーリス学園
インターアクトクラブ
顧問 杉田 信也先生



普通の高校生は人脈がなく、何かするときも受動的なことが多いです。自分が「やりたい」と思っても、なかなか行動には移せない。IACは、そんな高校生を変えていく活動を行っています。特に NNP は、主体的に行動する訓練のようなものです。人の思いに触れ、自分たちにできることは何だろうと考える。それが地域貢献や社会理解につながると思います。そのためには、大人が動いて人脈をつなげたり、最初に答えを言ったりしてはいけません。子どもたちが動くのを待ったり、つづいて刺激を与えたりすることが、見守る大人の役割だと考えています。

なかよくなっといでプロジェクト！(NNP)を

ちょっと紹介します♪

【はちまんフェスタで市内事業者の商品を販売】◆三松さん、だもん亭さん



販売するジュース原液の受け渡し。氷や容器の準備なども自分たちで考えました。



当日は晴天で会場は大盛況。冷たい飲み物は早くに売り切れてしまいました。

NNPがこれまで関わってきた市内の事業者と、協力して何かしたいと思ったことがこの取り組みのはじまりです。自分たちでアポイントを取って、仕入れなどを交渉することに苦労しました。しかし、自分たちでジュースやチョコ、クッキーを販売したことで、これまでのつながりの大切さや、商売の大変さがわかりました。

【仲良くなることで次の行動へ】◆ヨイマメ珈琲さん



直接話を聞くことで、より深くフェアトレードコーヒーについて知ることができました。

学校のワークショップで紹介カードをもらったことから、ミャンマーのコーヒー栽培に興味を持ち、その思いを聞きに行きました。話の中でオーナーの石上さんから「一緒に何かしないか」と提案があり、売り上げの一部を支援にあてる草津ファーマーズマーケットでの販売体験につながりました。